

北原^{きたはら}2遺跡(第2次)

遺跡番号 208-073
調査回数 第2次
所在地 山形県村山市大字本飯田字北原
北緯・東経 北緯 38 度 32 分 18 秒・東経 140 度 23 分 15 秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢)
調査面積 1050 m²
受託期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
現地調査 平成 23 年 5 月 9 日～6 月 30 日
調査担当者 渡部裕司(現場責任者)・濱松優介
調査協力 村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代
遺構 溝跡・土坑・性格不明遺構
遺物 縄文土器・石器 (文化財認定箱数: 10 箱)



図1 遺跡位置図(1:50,000)

調査の概要

遺跡は、村山市本飯田地区、JR 袖崎駅から南南西約 1 km、標高約 90m に位置する。西側に最上川の支流である沢の目川が流れ、北東に向かってなだらかな丘陵地となっている。今年度、発掘調査を行った南端部は、東・西・南側を山麓斜面に囲まれている(図1)。昨年度に実施した、試掘調査の結果に基づき、遺跡範囲の南端部、1050 m²の発掘調査を行った。

遺構と遺物

調査区中央から北西部の、溝状の遺構(SD53)およ

び土坑(SK29)、倒木痕(SX51・SX30)から縄文土器の破片が、約 250 点出土した。ほとんどが破片であり、地文のみが確認できる土器であったが、中には、縄文時代晩期に特徴的な、三叉文が施された破片が確認出来た。器種はほとんどが深鉢と考えられるが、小型鉢や鉢、注口土器と考えられる破片も出土している。これらは、ほとんどが縄文時代晩期に属するものと考えられるが、縄文時代中期の土器も出土している。また、溝跡から出土した土器と、倒木痕から出土した土器が、同一個体の可能性がある。

まとめ

縄文時代晩期頃の遺跡であると思われる。しかし、建物跡や貯蔵穴など明確な縄文時代の生活の痕はない。土器の出土状況や接合状況などから、SD53 が埋没したのちに、倒木等によって攪乱を受けた可能性が高い。また、調査区西側の河川の存在、調査区西側から遺物が集中して出土していることを鑑みると、今年度調査区のさらに西側に当該期の集落が存在している可能性は否定できない。今後、昨年度の調査成果や、土器付着炭化物の年代測定等を併せて、詳細な検討を行っていく必要があるだろう。